

お米のはなし

お米や稲に関するちょっとした情報・豆知識を専門家が綴る「お米のはなし」の第90弾をお届けします。

(シリーズ担当：R. I.)

お米のはなし 第90話 高温耐性品種

「平成22年度高温適応技術レポート 農林水産省」には、各県におけるイネの高温耐性品種と従来品種の1等米比率の比較が掲載されています。表90-1は、そのレポートからの引用です。

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/pdf/h22_tekiou_gijyutu_report.pdf

表90-1 高温耐性品種に効果が見られた例（ア～キ 数字は1等比率（1月31日現在））

ア 山形県

	従来品種 はえぬき(H4)	高温耐性品種 つや姫(H21)
21年産	97%	99%
22年産	74%	98%
対前年	▲23%	▲1%

イ 新潟県

	従来品種 コシヒカリ(S31)	高温耐性品種 ゆきん子舞(H17)
21年産	90%	90%
22年産	21%	52%
対前年	▲69%	▲38%

ウ 富山県

	従来品種 コシヒカリ(S31)	高温耐性品種	
		てんたかく(H15)	てんこもり(H19)
21年産	86%	89%	95%
22年産	59%	90%	91%
対前年	▲27%	1%	▲4%

エ 福岡県

	従来品種 ヒノヒカリ(H1)	高温耐性品種 元気つくし(H21)
21年産	50%	91%
22年産	14%	87%
対前年	▲36%	▲4%

オ 大分県

	従来品種 ヒノヒカリ(H1)	高温耐性品種 にこまる(H17)
21年産	82%	69%
22年産	39%	72%
対前年差	▲43%	3%

カ 佐賀県

	従来品種 ヒノヒカリ(H1)	高温耐性品種 さがびより(H21)
21年産	65%	92%
22年産	13%	80%
対前年	▲52%	▲12%

キ 熊本県

	従来品種 ヒノヒカリ(H1)	高温耐性品種 くまさんの力(H21)
21年産	56%	69%
22年産	19%	64%
対前年差	▲37%	▲5%

※ 品種名横の（ ）内は育成年を示す。

ここでは、高温耐性品種として「にこまる」と「にじのきらめき」の2品種を取り上げます。

1. にこまる

「にこまる」は、九州のブランド米「ヒノヒカリ」に代わる品種として、食味、品質、収量の3拍子揃った米を目標に、九州沖縄農業研究センターで開発されました。近畿・中国地域6府県で急速に普及している、良食味の早生品種「きぬむすめ」と、倒れにくく品質の良い「北陸174号」の交配組合せから育成されました。旧系統名は、西海250号です。

本品種の出穂期・成熟期は、「ヒノヒカリ」並かやや遅い、暖地向きの中生種です。玄米の粒張りが良く、高温年でも白未熟粒の発生が少なく、明らかに「ヒノヒカリ」より優れます。

炊飯米は光沢が良く粘りが強く、食味は「ヒノヒカリ」と同等かそれ以上です。長崎県産の「にこまる」が米の食味ランキング（穀物検定協会選定）では4年連続で最高ランクの「特A」評価を受け、各地の食味コンテストでも上位入賞するなど、その食味は広く認められています。

収量は高温年でも安定しており、同じ面積の水田から「ヒノヒカリ」より5~10%以上多収になります。耐倒伏性は「ヒノヒカリ」並かやや強く、いもち病抵抗性は「ヒノヒカリ」並です。

基本的に「ヒノヒカリ」の栽培管理に準じますが、苗の伸長が早く初期生育が大きいため、「ヒノヒカリ」に比べ初期生育を抑制気味にして、徒長させないように管理することが重要です。

以上、「にこまるの育成」(<https://www.naro.go.jp/laboratory/karc/contents/ondanka/ondanka2/>)から引用しました。



写真 90-1 「にこまる」(左) と「ヒノヒカリ」(右) の玄米外観

2. にじのきらめき

農研機構中日本農業研究センター北陸研究拠点では、高温耐性と耐倒伏性に優れた中生水稻新品種「にじのきらめき」を育成しました。交配組合せは、西南136号(なつほのか)／北陸223号であり、旧系統名は北陸263号です。

本品種は、「コシヒカリ」並の極良食味で15%程度多収、縞葉枯病¹抵抗性です。大粒で業務用適品種として群馬県を中心に普及の予定ですが、北陸、東海地域以西でも栽培可能です。

近年、温暖化の進行に伴う登熟期間中の高温の影響



写真 90-2 「にじのきらめき」と「コシヒカリ」の玄米外観

¹ 縞葉枯病：ヒメトビウンカによって媒介される稲のウイルス病。葉に黄緑色または黄白色の縞状の病斑が現れ、生育が不良となり、やがて枯死する。後期感染では、黄緑色の条斑を生じ、穂が奇形となって出す症状を示す。関東から東海地域を中心に発生が多い病害。

響で「コシヒカリ」に白未熟粒が発生し、品質の低下が問題となっています。また、「コシヒカリ」は草丈が高く、収量向上のために多く施肥すると倒伏し易いという問題があります。

「にじのきらめき」は、草丈が短くて耐倒伏性が強く、「コシヒカリ」に比べて標肥栽培で15%程度、「コシヒカリ」が倒伏する多肥栽培では30%弱の多収になります。玄米の外観品質は「コシヒカリ」よりも良く、高温条件で栽培しても玄米品質に優れます。炊飯米の食味は「コシヒカリ」と同等の極良食味です。縞葉枯病抵抗性のため、北陸だけでなく関東、東海以西でも栽培が可能です。北関東の群馬県を中心に普及が期待されています。

栽培適地：「コシヒカリ」の栽培が可能な東北南部、北陸から関東以西の広範囲
農研機構プレスリリース（2018年9月6日）高温耐性に優れた多収の極良食味水稻新品種
「にじのきらめき」（https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/carc/082656.html）
から引用しました。

発行：(公社)国際農林業協働協会(JAICAF)
〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目10-39 赤坂KSAビル3階

 JAICAF ジェイカフ